

国際融合文化学会 2022. 3. 27.
熱海第一ビル会議室

基調講演
——物質文明から新文明へ——
Keynote Speech
——From Physical to New Civilization——

宗片 邦義
MUNAKATA Kuniyoshi

Abstract: After COVID and Ukraine fighting, coexistence of all life and not only physical but also spiritual new civilization shall be desired. The Mokichi Okada Association (MOA), aiming at realizing the “Paradise on Earth”, seems to expect Quantum Physics, which deals with the unseen world, will prove the universal truth, including “Okada Purifying Therapy” which may ease both physical and spiritual diseases. The writer will pursue such ideas in his new Noh play, *Palm of Light*.

Keywords: コロナ禍、ウクライナ、共生、平和憲法、新文明、霊科学、目に見えぬ世界、量子物理学、湯川秀樹、MOA、岡田茂吉、「霊主体従」、浄霊、統合医療、岡田式浄化療法、レヴィ・ストロース、創作能『光の掌』。

COVID, Ukraine, coexistence, Peace Constitution, new civilization, spiritual science, unseen world, Quantum Physics, Hideki YUKAWA, MOA, Mokichi OKADA, “law of spirit precedes body,” *Johrei*, integrated care, Okada Purifying Therapy, Levi-Straus, new Noh play *Palm of Light*.

二年ぶりの例会となりました。皆さん、お元気ですか。今日お出で下さった皆さんはお元気ということですね。(笑い)。激動の時代です。いかに対応・対処すべきか。今日は冷静に、無心で聴いてください。この学会はいつも和(なご)やかな、のどかな学会ですが。(笑い)

前回例会では、学会結成20周年を前にして、創設の趣旨、世界の文化の調和と融合について、そして3Kの法則について話しました。3Kの法則とは、心、ことば、行動の三つが一致するということでした。そしてそれに関連して、言霊(ことだま)について話しました。つまり言葉はその意味だけでなく響きがどんな影響をもたらすか、ということでした。それからまた、われわれの体内の微生物は、その人間の心を100%見抜くという説がある、など話しました。

さてその後、世界中にコロナ禍が広がりました。医学が対応に苦慮している間に、一方では、「ウイルスとは共生すべきもの」(With Corona)という説が出され、国によってはそれが政府も認め、首脳がマスクも外した国もあり。わが学会誌にもそうした論説が29号に載りました。

ウイルスと人間は**共生**すべき関係にあり、敵対するものではないと。しかし敵対とみている現代医学はウイルス退治対応に迫られ、その未熟さ未発達を露呈しています。抑え込むことができず、次々に新薬の開発に大わらわです。さらに次は何次波が来ると警告（呼び込み）しています。

「不幸は単独ではやってこない。後を連れてくる」とはシェイクスピアの『ペリクレス』の中のセリフですが、アメリカの大統領選挙で敗北した前大統領が未だに敗北を認めず、不正があったと気炎を上げています。それからロシアのウクライナ侵攻が始まりました。気候変動やウイルス禍は自然現象と思われましたが、まもなく人工の自然現象と判明しました。しかし外国侵攻という暴挙は、これは何というべきでしょうか。

私が小学生の頃、いまから八十年程前ですが、日本は今のロシアと同様のことをやりました。中国で。さらにアメリカは真珠湾で、そして東南アジアへ軍事侵攻しました。日本を中心に大東亜共栄圏をつくる為とか。（ヨーロッパではすでにその前 1928 年に不戦条約が成立していましたね。）

日本ではやがて国民総動員が叫ばれ、戦争反対とか平和とか民主主義など口にしようものなら、投獄される時代でした。学校では「日本は神国で、必ず勝つ」と教えられ、しかし次第に敵機が上空を飛ぶようになり、爆撃されても、「最後の一人まで戦う」が軍部中心の政府見解で、「鬼畜米英」などと叫ばれました。日本はドイツ・イタリアと組んでましたが、彼らは降伏し、やがて日本には広島・長崎に原爆が投下され、ようやく天皇による終戦宣言がなされました。1945 年 8 月、無条件降伏でした。その敗戦直前に、ロシアが参戦してきました。

国民は殺さないで、など戦争になったら通用しません。今のウクライナと同様です。実に悲惨なものでした。私の町（山形県温海（あつみ）温泉）の疎開から帰って行った小学校上級生たちは、東京へ帰ってから列車が爆撃にあい、みな亡くなったとあとから聞きました。戦争を始めたからお終いです。敗戦日本では「**平和憲法**」が誕生しました。押しつけ論がありますが、もう戦争はこりごり、「**戦争絶対反対**」を固く守ることを決意したものでした。

人間というものは、いかに歴史に学ばないものか。そして同じ過ちを繰り返すものか。いかに進化しないものか、情けないです。学び方を間違えるのでしょうか。それは一部の政治家のみでしょうか。威勢のいい政治家についてゆきたいのでしょうか。「ロシア兵母の会」というのがあるそうです。しかし戦争反対運動を抑えられているようですね。

人類文明が精神文明になっていない。コロナが終わり、ウクライナが終わったら、そうした戦争文化・競争文化・物質文明ではない、**精神文明**の時代になってほしい。単に平和に戻るのではなく。戦争の悲惨さを、世界中の人々が知って、特に戦争を知らなかった世代の人たちには、戦争の悲惨さを確り学んで、人類を**進化**させてほしい。物質文明から**精神文明**、もしくは**新文明**へ。これが今日話したかったことの一つです。多分私が一番年長じゃないかと思って、話させていただきました。え、いま私は花（87）の齢で、今年 11 月に米寿を祝います。（笑い）

さて、もう一つ、大事な話があります。これはやや個人的なことが絡むのですが、、、。もう20年程前ですが、名古屋大学の物理学科、といえば日本有数の学科ですが、ノーベル賞受賞の先生もおられる。その卒業生が、大学院は文系の私のゼミに入ってこられたことです。この学会の母体となった日大の通信制大学院です。私は高校では生物と地学と化学を選択し物理は取りませんでした。そして英文科に入り、まったく物理学の知識がありません。なぜ物理を専攻した優秀な若者が、シェイクスピアとか能とか文系の私のところに來られたか、分からなかったのです。それが最近少し分かったのです。正しくは、物理学や天文学と私の好きな文学との関係がわかったのです。

テレビの放送大学で、いろんな講座をちらちら拝聴しているうちに、「生命科学」とか「宇宙の誕生」とか「ダイナミックな地球」とか、面白い講座があつて、やや個人的なことでは、1964年に、宇宙マイクロ波があると分かったとか。(私の先生、ブライズ先生が亡くなられた年なので)。それはともかく、いまだ未知の分野がいろいろある。なぜ生命は誕生したか、とか、宇宙はなぜ存在するかとか、宇宙誕生前に物理法則はあったかとか。そういうことなら大いに興味があつます。

私の無知をさらけ出しますが、太陽系は銀河系の中心ではなく、銀河系とかは宇宙に無数と言つていいほどあるとか。そして特に面白いと思つたのは、「量子(りょうし)物理学」という講座です。それで驚いたことに、物理学でも「量子物理学」「量子力学」というのは、目に見えない世界を扱っているという。初めて知つたのです。それは「理論物理学」であつて、実験物理学ではない。私は科学というものは実験や実証に基づくものと思つていたのです。物質世界を扱うものであると。それがなんと、理論だけで、「量子」とは目に見えないものだ。目に見えないけど存在する。それを研究している。そして人体からは目に見えない放射能・赤外線が出ている。温度のあるものはすべて赤外線を出している。この世界に充満している宇宙線も目に見えないとか。

私が文学とか宗教に関心があつたのは、特に目に見えない分野のものでした。亡霊の出るシェイクスピア劇とか、能もそうですが。それで「目に見える世界だけを真実」として扱う政治や裁判は真実ではない。信用がならない。そういう政治家や裁判官、特に裁判官などは本当の真実を扱っていると思えない。一方、物理学者の朝永振一郎先生が、私の学生時代、『ハムレット』の英語劇を観に、聴きに、来て下さつた。私の大学の学長でした。ご存知のように、その後ノーベル物理学賞を受賞なさいました。不勉強の私は目に見えない世界を扱う物理学があつて、「量子力学」というのは理論物理学であると知りませんでした。福原麟太郎先生がエッセイに、朝永氏の研究室(のデスク)には紙と鉛筆しかなかった、と書いておられるのを覚えています。そのわけがようやく解つたのです。

この学会の顧問の日江井栄二郎先生は、東京天文台の台長をなさつた東大の名誉教授ですが、その先生が30年程前、私が週一度、明星大学の講師室にいますと、いつもそばにきて話をして下さつた。そして20年程前この学会の顧問をお引き受け下さつた。そのわけがようやく少し分かったのです。いえ、今も十分には分かっていませんが。

それからまた不思議なことが起こりました。今から 17・8 年前ですが所沢の日大大学院が定年になる直前に、熱海のマンションを買って下さい、安くしますからという話を、以前からお世話になっていた能装束のデイナーの方からいただいたのです。それで熱海に越してきたところ、近くに MOA 美術館があり、それが、美術館を中心に**世界平和**を念願し、**地上天国**の雛形として創られた瑞雲郷（ずいうんきょう）といういわば聖地だということです。それで例会などをのぞき、新聞などを拝見しますと、目に見えない霊と物質とは「**霊主体従**（れいしゅたいじゅう）」という関係である、ということです。争いは心から始まると言いますが。そしてそれが「**量子物理学**」に関係ありと。もちろん物理的な病気もありますが、病気の本質ですね。本来の病気といえますか。つまり、病気の本質はやがて「**量子力学**」によって解明されるであろうということです。

そして、宗教ではなく超宗教と称して、イエス・キリストが掌（てのひら）で病気を癒したように、「手かざし」で病気を治すということです。個人差はあれど掌から放射能が出ているということです。それが目に見えない霊波であって、それで教祖の書き物を調べてゆくうちに、**湯川秀樹博士**の「量子力学」がこの解明に近づいてきたとあり、これは半世紀以上も前のことなのです。「お光さま」と言われた方のことです。そしてこれが先ほどの放送大学の物理学や天文学の講座とつながったというわけです。そしてこの「**量子**」というものは、目には見えない、そして何にでもなりうるものだということです。どうやらこれが、先ほどの、敵対か共生か、想念の世界にも関係ありそうということです。いかがですか、信じがたい不思議な話でしょう。

先日、放送大学で、フランスの人類学者、**レヴィ・ストロース**が来日されての講演の再放送を聴きましたが、氏はそれぞれの民族は独自の文化構造を持っており、西洋基準で優劣をつけることの無意味を主張した人ですが、**科学文明への懐疑**を最後にのべておられ印象的でした。日本文化の独自性の話もあって、日本文化への西洋での関心の強さも述べていました。日本ではそれに十分気が付いていないのではないのでしょうか。

コロナ禍があって、科学文明への懐疑がいよいよ世界的になりつつあります。それで、嘗て「浄霊」とか「手かざし療法」とか呼ばれていたものが「**岡田式浄化療法**」として今は認められて、統合医療の中に入っているようですね。この治療法による科学研究も世界各地ですすめられて、データ・エヴィデンスも多数出ていると。

かつて、天動説（地球中心説）から地動説（太陽中心説）へ、またニュートンの万有引力発見によってこの宇宙空間に見えない力の存在が解明されたように、この 21 世紀、物質科学から霊科学への、そして**新文明への大転換**がおこる、それを私たちはいま体験しているのかもしれないですね。50 年、100 年経って、それに気が付くものでしょうか。

それで、いま述べたわたしの研究成果を、実は新作能に制作中なのです。お手元に配布の台本で、これは未完の物ですが、いずれ学会誌に発表したいと思っています。

本日の皆さんの今日のご発表、期待しています。